

# 13th-note

## 2013年1月センター試験

### 数学 I A ・ 解説

この教材を使う際は

- 表示：原作者のクレジット（「13th-note」）を表示してください。
- 継承：この教材を改変した結果生じた教材には、必ず、原作者のクレジット（「13th-note」）を表示してください。



Ver1.00 (2013-1-20)

第1問 [1] 分母に  $1 + \sqrt{6}$  が共通していることに注目して

$$\begin{aligned} AB &= \frac{1}{(1 + \sqrt{6}) + \sqrt{3}} \cdot \frac{1}{(1 + \sqrt{6}) - \sqrt{3}} \\ &= \frac{1}{(1 + \sqrt{6})^2 - 3} \\ &= \frac{1}{1 + 2\sqrt{6} + 6 - 3} \\ &= \frac{1}{2\sqrt{6} + 4} \\ &= \frac{2\sqrt{6} - 4}{(2\sqrt{6})^2 - 4^2} \\ &= \frac{2\sqrt{6} - 4}{8} = \frac{\sqrt{6} - 2}{4} \end{aligned}$$

◀ 分母は  $(1 + \sqrt{6})^2 - (\sqrt{3})^2$

◀  $(2\sqrt{6})^2 > 4^2$  より  $4 + 2\sqrt{6}$  としない

◀ 分母と分子に  $2\sqrt{6} - 4$  を掛けた

また,  $\frac{1}{A} = 1 + \sqrt{3} + \sqrt{6}$  に注意して

$$\begin{aligned} \frac{1}{A} + \frac{1}{B} &= (1 + \sqrt{3} + \sqrt{6}) + (1 - \sqrt{3} + \sqrt{6}) \\ &= 2 + 2\sqrt{6} \end{aligned}$$

ここで,  $\frac{1}{A} + \frac{1}{B} = \frac{A+B}{AB}$  から  $(\frac{1}{A} + \frac{1}{B})AB = A+B$  であるので

$$\begin{aligned} A+B &= (2 + 2\sqrt{6}) \cdot \frac{\sqrt{6} - 2}{4} \\ &= (1 + \sqrt{6}) \cdot \frac{\sqrt{6} - 2}{2} \\ &= \frac{\sqrt{6} - 2 + 6 - 2\sqrt{6}}{2} = \frac{4 - \sqrt{6}}{2} \end{aligned}$$

◀  $2 + 2\sqrt{6} = 2(1 + \sqrt{6})$  に注意して, 2 で約分

「日頃から展開を工夫するようにしていれば, 標準的な問題. 万が一, 地道にやっても計算できないほどではない。」

**ア** : 3 (2点), **イ** : 2, **ウ** : 4 (以上3点), **エ** : 2, **オ** : 2 (以上2点)

**カ** : 4, **キ** : 2 (以上3点)

[2] (1) 対偶の定義より, **ク** は  $(p$  または  $q)$  の否定, つまり  $(\bar{p}$  かつ  $\bar{q})$  であり, **①**<sub>ク</sub>

◀ 『対偶』

◀ 13th-note 数学 A『ド・モルガンの法則 (p.19)』

(2) まず,  $(p$  または  $q)$  であるものを選ぶ. それは **①**, **②**, **③**, **④** である. このうち,  $r$  でないものを選ぶ. それは,  $45^\circ$  を含む **①** と **④** <sub>ケコ</sub> である.

【別解: 対偶の利用】「 $(p$  または  $q) \Rightarrow r$ 」の反例は「 $\bar{r} \Rightarrow (\bar{p}$  かつ  $\bar{q})$ 」の反例と一致する.  $\bar{r}$  であるのは  $45^\circ$  をもつ **①**, **④** のみ, これらは共に,  $(p$  または  $q)$  を満たすので, どちらも反例になっている.

(3) 命題「 $(p$  または  $q) \Rightarrow r$ 」は (2) より偽なので,  $r$  は必要条件ではない. 命題「 $r \Rightarrow (p$  または  $q)$ 」の真偽は, (1) より命題「 $(\bar{p}$  かつ  $\bar{q}) \Rightarrow \bar{r}$ 」の真偽と一致する. これは, 「三つの内角に同じ角があり直角三角形であるならば,  $45^\circ$  の内角が少なくとも 1 つある」の真偽であるが, 「三つの内角に同じ角があり直角三角形である」ような三角形は直角二等辺三角形しかない. つまり命題は真であり,  $r$  は十分条件である.

よって, 答えは **②**<sub>サ</sub> である.

「対偶・必要十分条件の定義が分かっているならば, 難しくない」

**ク** : 1 (3点), **ケ** : 1, **コ** : 4 (各2点, 順不同), **サ** : 2 (3点)

第2問 図示すると右図のようになる. Pのx座標が8進むには,  $8 \div 2 = 4$ 秒かかる.

(1) Pのx座標は,  $t$ 秒後は $8-2t$ であるから,  $\triangle OPP' = \frac{1}{2}(8-2t)^2 = \frac{1}{2} \cdot 2^2(4-t)^2$ .

一方,  $t$ 秒後は $Q(t, 10t)$ であるから,  $\triangle OQQ' = \frac{1}{2}t \cdot 10t = 5t^2$ . よって

$$\begin{aligned} S &= 2(4-t)^2 + 5t^2 \\ &= 2(16-8t+t^2) + 5t^2 \\ &= 7t^2 - 16t + 32 \\ &= 7\left(t - \frac{16}{7}\right) + 32 \\ &= 7\left\{\left(t - \frac{8}{7}\right)^2 - \left(\frac{8}{7}\right)^2\right\} + 32 \\ &= 7\left(t - \frac{8}{7}\right)^2 - \frac{64}{7} + \frac{224}{7} \end{aligned}$$

この放物線の軸は  $0 < t < 4$  の中にあるので,  $t = \frac{8}{7}$  のとき  $S$  は最小値

$\frac{160}{7}$  をとる.

(i)  $S$  が  $t = \frac{8}{7}$  で最小値となるには, 定義域  $a \leq t \leq a+1$  に  $t = \frac{8}{7}$  が含まれていけばよい. つまり

$$a \leq \frac{8}{7} \leq a+1 \Leftrightarrow \frac{1}{7} \leq a \leq \frac{8}{7}$$

(ii)  $t = a$ , つまり定義域の左端で最大となるには, 定義域の中央  $t = a + \frac{1}{2}$  が, 軸  $t = \frac{8}{7}$  より左側にあればよい. つまり

$$a + \frac{1}{2} \leq \frac{8}{7} \Leftrightarrow a \leq \frac{16}{14} - \frac{7}{14} = \frac{9}{14}$$

(2) 3点O, P, Qを通る放物線を  $y = ax^2 + bx + c$  とおくと, Oを通ることから  $c = 0$  であり,  $y = 2x^2$  のグラフを平行移動したものと一致したならば  $a = 2$ . つまり, 3点O, P, Qを通る放物線を  $y = 2x^2 + bx$  とおいてよい.

$t$ 秒後,  $P(-8-2t), 8-2t), Q(t, 10t)$  であるから, これらを代入して

$$\begin{cases} 8-2t = 2(8-2t)^2 - b(8-2t) \dots\dots\dots ① \\ 10t = 2t^2 + bt \dots\dots\dots ② \end{cases}$$

②において,  $t \neq 0$  から両辺を  $t$  で割って  $10 = 2t + b \Leftrightarrow b = 10 - 2t \dots\dots\dots ③$ .

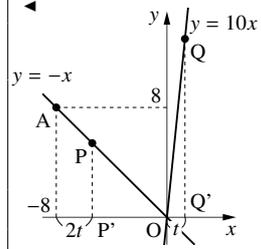
①において,  $t \neq 4$  から両辺を  $8-2t$  で割って  $1 = 2(8-2t) - b$ . ここに, ③を代入して

$$\begin{aligned} 1 &= 16 - 4t - (10 - 2t) \\ \Leftrightarrow 1 &= 6 - 2t \\ \Leftrightarrow 2t &= 5 \quad \therefore t = \frac{5}{2} \end{aligned}$$

再び③から  $b = 10 - 2 \cdot \frac{5}{2} = 5$  であるから, 3点O, P, Qを通る放物線は

$$\begin{aligned} y &= 2x^2 + 5x \\ &= 2\left(x^2 + \frac{5}{2}x\right) \\ &= 2\left(x + \frac{5}{4}\right)^2 - \frac{25}{8} \end{aligned}$$

となり,  $y = 2x^2$  のグラフを  $x$  軸方向に  $-\frac{5}{4}$ ,  $y$  軸方向に  $-\frac{25}{8}$  平行移動したグラフとわかる.



◀ 最小値を求めるため平方完成

「前半は図を正しく書けば難しくない. (1)の後半は軸と, 定義域の端, 真ん中との位置関係を考える典型的な問題, (2)は

(1) と独立した標準的な 2 次関数の決定の問題.]

ア : 4 (3点), イ : 7, ウ : 1, エ : 6, オ : 3, カ : 2 (以上 3 点)

キ : 8, ク : 7 (以上 3 点), ケ : 1, コ : 6, サ : 0, シ : 7 (以上 3 点)

ス : 1, セ : 7, ソ : 8, タ : 7 (以上 3 点), チ : 9, ツ : 1, テ : 4 (以上 3 点)

ト : 5, ナ : 2 (以上 3 点) ニ : -, ヌ : 5, ネ : 4 (以上 2 点), ノ : -, ハ : 2, ヒ : 5, フ : 8 (以上 2 点),

第3問 図を描くと、右のようになる。

$\triangle OAP$  は直角三角形なので、 $AP = \sqrt{3^2 + 1^2} = \frac{\sqrt{10}}{\text{アイ}}$

また、 $OD$  と  $AP$  の交点を  $M$  とおくと、 $\triangle MOP$  の  $\triangle OAP$  であるから

$$MO : OP = OA : AP$$

$$\Leftrightarrow MO : 1 = 3 : \sqrt{10}$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{10}MO = 3$$

よって、 $OD = 2MO = 2 \cdot \frac{3}{\sqrt{10}} =$

$$\frac{3\sqrt{10}}{5} \text{ ウエオカ}$$

さらに、 $\triangle OAD$  について、 $A$  から見た余弦定理より

$$\begin{aligned} \cos \angle OAD &= \frac{3^2 + 3^2 - \left(\frac{3\sqrt{10}}{5}\right)^2}{2 \cdot 3 \cdot 3} \\ &= \frac{18 - \frac{18}{5}}{18} \\ &= 1 - \frac{1}{5} = \frac{4}{5} \text{ キク} \end{aligned}$$

また、 $\angle ACB = 90^\circ$  より、 $AC = AB \cos \angle OAD = 6 \cdot \frac{4}{5} = \frac{24}{5}$  ケコサ

$\sin \angle OAD = \sqrt{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^2} = \frac{3}{5}$  より、 $CB = 6 \cdot \frac{3}{5} = \frac{18}{5}$  であるから、

$$\triangle ABC = \frac{1}{2} \cdot \frac{24}{5} \cdot \frac{18}{5} = \frac{216}{25} \text{ シスセソタ}$$

内接円の半径は、これを  $r$  とおくと

$$\begin{aligned} \frac{r}{2} \left(6 + \frac{24}{5} + \frac{18}{5}\right) &= \frac{216}{25} \\ \Leftrightarrow \frac{5r}{2} (30 + 24 + 18) &= 216 \\ \Leftrightarrow 5r \cdot 36 &= 216^6 \quad \therefore r = \frac{6}{5} \text{ チツ} \end{aligned}$$

(1) まず、 $\angle A = \angle C = 90^\circ$ 、 $CE = AB$ 、 $AC$  共通より、 $\triangle ACE \equiv \triangle CAB$  であるから、内接円  $Q$  も  $R$  も半径  $\frac{6}{5}$  である。また、 $\angle A = \angle C = 90^\circ$  に注意して、 $RQ \parallel AC$  であり、 $RQ = AC - \frac{6}{5} - \frac{6}{5}$  とわかる。よって

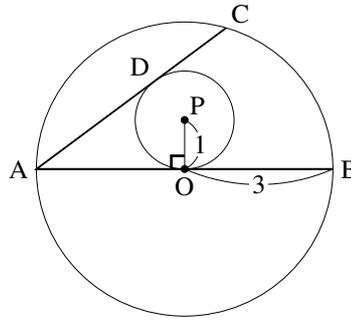
$$RQ = AC - \frac{12}{5} = \frac{24}{5} - \frac{12}{5} = \frac{12}{5} \text{ テトナ}$$

であり、これは、 $\frac{6}{5} + \frac{6}{5}$  に等しいから、内接円  $Q$  と  $R$  は外接し、 $\textcircled{2}$ 。

(2) 円  $P$  は  $AC$ 、 $AB$  と接しているので、 $AP$  は  $\angle CAB$  の二等分線であり、 $A$ 、 $P$ 、 $Q$  は一直線上にある。よって、 $Q$  から  $AB$  へ下ろした垂線の足を  $H$  とすると、

$$\begin{aligned} AP : AQ &= PO : QO \\ \Leftrightarrow \sqrt{10} : AQ &= 1 : \frac{6}{5} \\ \Leftrightarrow AQ &= \frac{6}{5} \sqrt{10} \text{ ヌネノハ} \end{aligned}$$

であり、 $PQ = AQ - AP = \frac{\sqrt{10}}{5}$  ヒフヘ



◀ 直線  $AB$  を水平に引くと描きやすい。

◀ 【別解】  $\cos \angle PAO = \frac{3}{\sqrt{10}}$  について、倍角の公式を用いてもよい。

◀ 分母と分子が 18 で約分できる

◀ 両辺を 25 倍した

$\frac{\sqrt{10}}{5} < 1$  より, Q は円 P の内部にあり,  $\frac{\sqrt{10}}{5} < \frac{6}{5}$  より, P も円 Q の内部にあるから ② .

「図をうまく描きさえすれば, どちらかと言えば, 中学の図形問題の要素が強い問題. 円周角の定理, 三平方の定理, 相似, 合同などを駆使できれば, 比較的解きやすい. 逆に言えば, それらの図形的性質に気づかないと, なかなか解きづらいだろう。」

ア : 1, イ : 0 (以上 3 点), ウ : 3, エ : 1, オ : 0, カ : 5 (以上 3 点)  
 キ : 4, ク : 5 (以上 2 点), ケ : 2, コ : 4, サ : 5 (以上 2 点)  
 シ : 2, ス : 1, セ : 6, ソ : 2, タ : 5 (以上 3 点), チ : 6, ツ : 5 (以上 3 点)  
 テ : 1, ト : 2, ナ : 5 (以上 3 点), ニ : 2 (3 点), ヌ : 6, ネ : 1, ノ : 0, ハ : 5 (以上 2 点), ヒ : 1, フ : 0, ヘ : 5 (以上 3 点), ホ : 2 (3 点)

第 4 問

- (1) すべての桁が 4 通りずつなので,  $4^4 = \text{アイウ}$  256 個ある.  
 (2) 重複がないので,  $4! = \text{エオ}$  24 個.  
 (3) (i) 1, 2, 3, 4 から 2 つ選ぶので,  ${}_4C_2 = \text{カ}$  6 通り.  
 (ii) 一・十・百・千の位の 4 つから 2 つ選ぶので,  ${}_4C_2 = \text{キ}$  6 通り.  
 (iii)  $6 \cdot 6 = \text{クケ}$  36 個.  
 (4) (i) 得点が 9 点, つまりすべて同じ数字になるのは 4 通り, つまり確率は  $\frac{4}{4^4} = \frac{1}{\text{64}}$  コサシ  
 得点が 3 点は, (3) より  $\frac{36}{4^4} = \frac{9}{\text{64}}$  スセソ  
 (ii) 得点が 2 点は, 3 回現れる数字を選ぶのが  ${}_4C_1 = 4$  通り, それをどの位に置くかが  ${}_4C_3 = 4$  通り, 残りの数字を選ぶのが  ${}_3C_1 = 3$  通り, つまり  $\frac{4 \cdot 4 \cdot 3}{4^4} = \frac{3}{\text{16}}$  タチツ 通り  
 得点が 1 点は, 2 回現れる数字を選ぶのが  ${}_4C_1 = 4$  通り, それをどの位に置くかが  ${}_4C_2 = 6$  通り, 残りの数字を選ぶのが  ${}_3C_2 = 3$  通り, 2 ヶ所に配置するのが 2 通り, つまり  $\frac{4 \cdot 6 \cdot 3 \cdot 2}{4^4} = \frac{9}{\text{16}}$  テトナ 通り  
 (iii) 期待値は  $9 \cdot \frac{1}{64} + 3 \cdot \frac{9}{64} + 2 \cdot \frac{3}{16} + 1 \cdot \frac{9}{16} + 0 \cdot \frac{24}{256}$   
 $= \frac{9 + 27 + 24 + 36}{64} = \frac{96}{64} = \frac{3}{\text{2}}$  ニヌ

◀ 『重複順列』

◀ 『順列』

「標準的な, 場合の数と確率の問題。」

ア : 2, イ : 5, ウ : 6 (以上 3 点), エ : 2, オ : 4 (以上 3 点)  
 カ : 6 (2 点), キ : 6 (2 点), ク : 3, ケ : 6 (以上 2 点)  
 コ : 1, サ : 6, シ : 4 (以上 2 点), ス : 9, セ : 6, ソ : 4 (以上 2 点)  
 タ : 3, チ : 1, ツ : 6 (以上 3 点), テ : 9, ト : 1, ナ : 6 (以上 4 点), ニ : 3, ヌ : 2 (以上 2 点)